

団体名 <b>与那原町立与那原小学校</b>	連絡先 TEL : 098-945-2237 Eメール : yonasho@edu.town.yonabaru.okinawa.jp
---------------------------	---

## 1 実践事項 (②)

### 「天真爛漫 発見・探究・考動で綱がる与那原小」

## 2 実践内容

### (1) 与那原っ子「学び」の約束の定着 (図1)

- ・学習規律の徹底を図り、安心して学べる学級づくりを図る。
- ・全校朝会で「学び」の約束の確認をし、学年ごとの実践の様子を紹介する。



(図1) 与那原っ子「学び」約束



(写真1) 企画委員会が発案した「いじめティンクデー」

### (2) 委員会活動等の充実 (写真1)

- ・学習や学校行事、児童会活動等を通して自主的な活動の場を設定する。
- ・委員会活動のあり方を見直し、自分の活躍のできる場所を見いだすことで自己肯定感の高揚につなげる。

### (3) 校内研修を中心とした授業改善 (写真2・3)

- ・校内研テーマ「自分の考えを表現できる児童の育成」に基づいて、授業研究会及び1人1授業を実施
- ・多様性について考える道徳の授業について講師を招き、教材作り及び授業実践を行う。



(写真2) 授業研究会の様子



(写真3) 多様性について考える道徳授業

### (4) GIGA スクール構想の実現

- ・ネットリテラシーについての講演会を全学年実施。
- ・タブレット活用の幅を広げるために、タブレットを家庭へ持ち帰る。その際、家庭での活用状況を把握するためにアンケートを実施。改善すべきこと(使用時間やフィルタリングの問題)への対応策を検討し、家庭でもタブレットが有効に活用できるよう改善を進めている。



(写真4) タブレット活用

### (5) 保幼小中連携について (写真5)

- ・新1年生が安心して学校生活をスタートし、各教科等の学習へ円滑に移行できるようにスタートカリキュラムを実施。
- ・4月に保育園・幼稚園の教諭が1年生の授業を参観する。
- ・町内小学校・中学校と相互授業参観を実施。



(写真5) 小中相互授業参観の様子

### (6) 全国学習状況調査、学びのたしかめの結果分析

- ・前年度、落ち込みのある単元の学び直しを行い、確かな学力の定着を図る。
- ・諸学習調査の結果を分析し、課題を全職員で共有する。

### 3 成果・課題

- 与那原っ子学びの約束の定着や校内研の取り組みにより、落ち着いた学習環境が整い、学習に意欲的な児童の姿が多くみられるようになった。
- 委員会活動を中心に、自主的な活動が進められ、児童のよさやがんばりを発揮できる場が増えた。



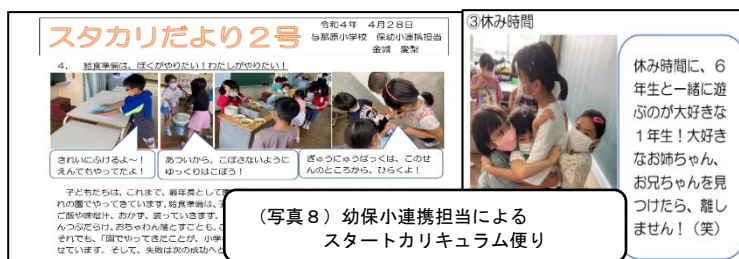
(写真6) 給食委員会による牛乳を飲もう！キャンペーン



(写真7) 生活委員会によるあいさつ運動

- コロナ禍であったが、校内研修の実施方法を工夫しながら、全職員による授業研究会、校内研のテーマに沿っての研修会を行うことができ、授業改善の手立てを学ぶことができた。

- 幼保小連携担当により、スタートカリキュラムが整えられ、全職員で取り組みを理解し、児童が安心して登校できる学級づくりにつながった。



(写真8) 幼保小連携担当によるスタートカリキュラム便り

- 令和4年度全国学習状況調査の結果から、算数・理科の本校正答率が全国平均正答率を上回ることができた。

	国語	算数	理科
全国正答率	65.6%	63.2%	63.3%
与那原小 正答率	65% (-0.6)	66% (+2.8)	65% (+1.7)

- 児童質問用紙「自分には、よいところがあると思いますか？」の調査で、肯定的な回答が全国平均79.3%に対し、本校は70.5%となった。自分のよさやがんばりを自覚できていない児童も多いことも課題となっている。普段の授業や当番活動も含め、様々な場面での児童のがんばりを褒め、児童の自主的な活動を教師や家庭、地域がサポートする環境作りを今後も整えていく必要がある。
- 授業の中でタブレットを日常的に活用して学ぶ姿勢を整えることで、家庭での望ましい活用につながると考える。まだまだ失敗や課題が出てくると思うが、それを改善しながらタブレット使用を進めていき、児童にとって意欲的に学習できるツールにしていきたい。また、情報教育のカリキュラムを見直しながら、授業でどのようにタブレットを活用できるか授業展開の工夫も考えて行く必要がある。